

かながわ 企業探訪

vol.100

ミヨシ・ロジスティクス株式会社

(TDB企業コード: 201489312)

住所 相模原市中央区下九沢58-1

代表者 吉田 潔氏

電話番号 042-779-6619

資本金 10,000千円

従業員 150名

目的 各種受託製造加工、
各種アウトソーシング業U R L <http://www.miyoshi-log.co.jp>

製造業の抱える、あらゆる課題をサポートする

急激な円高により産業の空洞化が高まり、中国をはじめとした海外での生産、組み立て、加工等が主流になりつつあるなか、「ヒューマン&ロジスティクスを、スピーディーかつジャスト・イン・タイムに提供」を合い言葉に品質・納期・価格はもとより、生産効率向上のご提案をプラスして、アウトソーシング事業を手がけている(株)ミヨシ・ロジスティクスの吉田社長にお話をうかがった。

TDB: 吉田社長は1992年5月に会社を立ち上げられたわけですが、きっかけはどのようなことだったのでしょうか。

吉田社長: 会社を立ち上げる前は大手自動車会社で生産管理に携わっており、「工場内の物流改善が省力化に役立つ」ということを事業化したいとの考えから会社を立ち上げ、はや16年になります。設立当初は人脈などを積極的

に生かし、企業が推し進める生産、組み立て、加工等の外部委託化をいち早く取り込むアウトソーシング事業を各企業に提案させていただき、三菱重工をはじめ多くの大手企業の取引先拡大を今日まで図ることができました。

TDB: 具体的にはどのようなアウトソーシング業務を手がけられているのですか。

吉田社長: 具体的には大手メーカー筋を対象に建設機械、運搬車輛、複写機など関連製品のサブ組み立て作業や光学レンズ製品、精密ダイカスト部品、特殊印刷部品などの検査、部品梱包、代行納品、管理などの物流業務を当社工場内、或いは得意先工場内で手がけています。組み立て作業ではエンジン組み立て、車輛組み立て、電子機器組み立て、試験・検査では建機車輛開発試験・設計、生産車輛出荷検査、光学レンズ品質検査、その他請負では鋳物、板金部品の仕上げ作業、部品改修・

手直し工事などです。

TDB: 各種検査や仕上げ作業など相応の技術や経験が必要ですね。

吉田社長: 海外生産との大きな差別化はまさにそこにあり、当社では様々な優良メーカーからの質の高い要望に応えるため、従業員の教育を徹底しています。質の高い作業をアウトソーシングすることにより、お客様のコスト削減のお役に立てていると自負しています。しかし、我々がなごしのミスをするれば即優良メーカーを中心としたお客様のブランドに傷をつけることとなり、大きな迷惑をおかけすることになります。確実にミスのない、そしてスピーディーな作業を実施し、お客様に納品することが当社の使命だと考え、しいては海外生産拠点における作業との差別化と捉えています。

TDB: 国内の景気減退感が強まる中、企業による設備投資意欲の停滞、在庫品の圧縮、人員削減など製造業全体の経営環境が厳しい中、御社も影響を受けざるを得ないと思いますが。

吉田社長: 確かに厳しさはあります。しかしそれを嘆いていても仕方ありません。自動車関係は業界的に生産拠点を海外に移しており、期待できません。円高で輸出企業はかなり苦しい状況に置かれていますが、反対に輸入企業には恩恵があります。輸入品を扱う商社やメーカーに注目しており、円高による輸入品の増加により検品などの需要は期待できます。

TDB: なるほど、ユニクロやニトリなど海外生産の企業の勢いは衰えませんが、最近は大手スーパーマーケットにおいて円高還元セールなど、輸入品関係でのビジネスは期待できそうですね。最後に吉田社長から何か一言。

吉田社長: 時代の変化でお客様のニーズも早く

なっており、そうした変化に対応できる仕組みを導入しなければなりません。しかし基本は常にそれぞれのお客様の生産効率向上に質の高さといった付加価値をつけたサービスの導入を常に考えることが、お客様から高く評価されることと考えています。海外での生産拠点が常識になる中、そうして輸入された商品の品質向上のお役に立つような役割なども、今後担っていければと考えています。

—終わりに—

国内メーカーにおける中国をはじめとした東南アジアへ生産拠点を移す流れは、最近の円高の進行もあり、一層進んで行くことが予想される。日本経済はデフレの中にあるが、そうした

中でも悪かろう、安かろうでは消費者は商品を手にしてくれない。値段も大切であるが、最終的には品質が重要視されるのである。

日本人の仕事に対する取り組み、正確さなど物作りに対する姿勢はトップレベルにあると言え、商品の品質に対する消費者の目が厳



しくなるに従い、売る側が「輸入品だから仕方がない」といった見識では消費者から見放されることとなる。

請負業者を探している、品質管理、工程改善に取り組んでいるものの苦勞している、輸入品を扱っているが輸入商品の検品代行をお願いしたいなど、製造業をはじめとした関係業者からの需要は今後一層期待され、各業界から注目と期待を集めるものと考えられる。

当社へのお問い合わせ
「工場サポート.com」
<http://k-j-support.com/>
電話: 042-779-6619